

龍谷顕真会会報

も く じ

第5回海外視察（アメリカ西海岸）グラフ	2
第5回海外視察レポート	3～9
平成10年度 会員活動報告	10～13
平成10年度 総会報告、世話人会報告、会員の動静	13



サンフランシスコ仏教会を訪問

◇10期百日間の蓮如上人五百回遠忌法要も期間の半分が終了した。本山も法要中は1日3千人を越す参拝者でにぎわっている。五木ひろしさんが歌うイメージソング「故郷の人」が連日境内に流れ、法要にあわせて様々なイベントが開催されている。本年の顕真会・総会では参加者一同そろって蓮師の法要に参拝した。

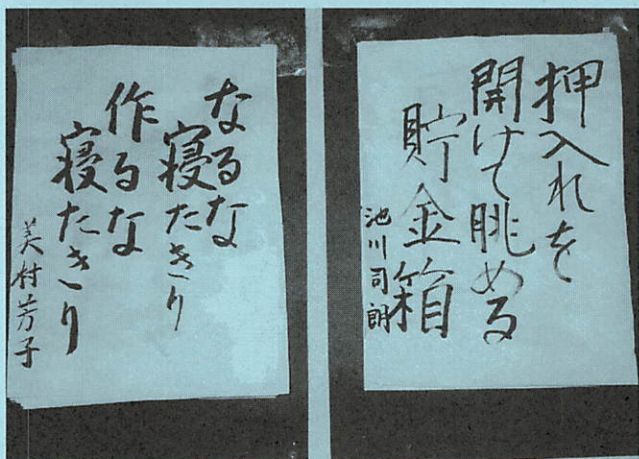
◇第18回参議院選挙が終わった。結果は政権政党の自民党が議席の半数を割って、橋本龍太郎首相が辞任。かわって「平成男」の小淵恵三氏が新首相に就任した。

昭和49年4月、参議院選挙で「宗門の代表を国会に送ろう」という声に協力すべく龍谷顕真会が結成された。そして、来年で結成25周年の節目を迎える。現在の会員数は44人。今と当時とは社会の状況も政治のあり方もずいぶん変わった。しかし、宗祖 親鸞聖人のみ教えのこころを政治の場に反映させたいという会員の心情は今も変わらない。

◇現在、顕真会事務局（本願寺広報部）の人員は5人。渡邊信壽事務局長をはじめ、昨年の総会からくらべると3人の顔ぶれが新しく変わった。今までの流れを踏襲しつつ、あらたな視点とアイディアをもって本会の事務を行っていききたい。



▲ 近代的な公園のなかで



▲ 養老ホームの掲示板には



▲ 福祉施設の玄関前で



▲ 渡辺開教総長(下)の法話

第5回海外視察グラフ
平成9年10月6日～10日



▲ 幼稚園児も一緒に参拝

第5回海外視察レポート

特集 '97
アメリカ西海岸の旅



平成9年度の海外視察はアメリカ西海岸で行いました。
日程は十月六日から十日までの五日間。参加者は会員、寺族、門徒あわせて十二人。内容はサンフランシスコ仏教会とロサンゼルス別院の参拝をはじめ、サンフランシスコ市庁舎の訪問、日系人の福祉施設やカリフォルニア州立大学の視察など。多くの日系人が暮らしている、アメリカの現状を見聞しました。参加者にはそれぞれに意義深い海外視察であったことと存じます。ここに参加者のレポートを掲載して、海外視察の報告と致します。

北米教団を視察して

団 長 川 越 証 真
山口県美祿市議

今回の視察は、平成9年10月6日(月)から10日(金)まで、3泊5日で実施されました。

【第1日目】

一行12名は関西空港に集合、午後5時50分、ユナイテッド航空にて出発
午前11時50分、サンフランシスコ到着
日付変更線の関係で同日到着
金門橋をはじめ市内見学

【第2日目】

午前、サンフランシスコ市庁舎のジェフ・モリ氏を訪問。彼は日系三世で「青少年および家族のための市長室」の責任者として市長の信頼厚く、重要な位置を占めておられます。その後、米国仏教団本部を訪問。北米開教区・渡辺博文開教総長より開教区の説明を聞き、併せてサンフランシスコ仏教会に参拝しました。午後3時、空路ロサンゼルスに向けて出発。

【第3日目】

午前中ロサンゼルス別院参拝、福岡誠幹輪番を訪ね、ロサンゼルス及び近郊の仏教会の様子について説明を聞きました。
その後、福祉施設(引退者ホーム、養老ホー

ム)を見学。この施設は個人で設立されたもので、設備も充実し、入所希望者も多いということでした。

次にカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)を見学。州立大学の一つとして学生数3万5千人、教授数は3千3百人のマンモス校で、1パーセントのスポーツ推薦学生が合法的に認められているとのこと。
午後、市内観光の後ホテルに宿泊。

【第4日目】

午前11時、ユナイテッド航空にてロサンゼルス空港を出発

【第5日目】

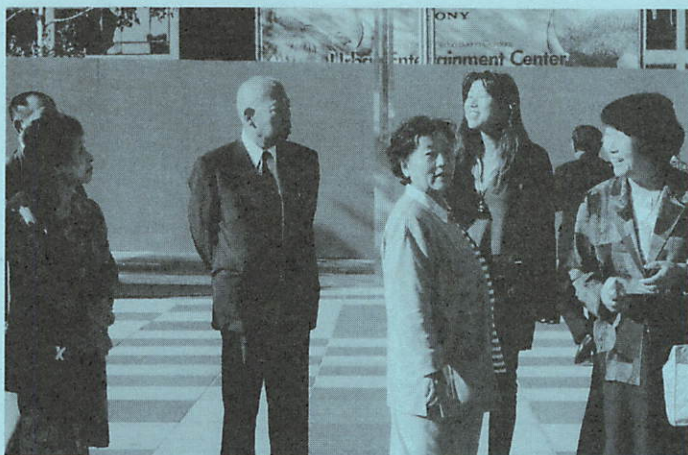
午後、関西空港に到着。一行は元気で事故もなく、無事視察を終えることができました。

雑感

○参加人員が定員に達しないため、事務局は大変苦労されたようです。

○北米教団も都市に近い仏教会は恵まれているが、少し田舎の方に行くと財政的にも極めて厳しいとのこと。

○ロサンゼルスはスペイン系、アジア系の移民者が多く、それぞれの町を形成して生活しています。貧富の差が大きく、ホームレス



▲ 朝の美術館街を散策

がたむろする一角は立ち入ることも危険な状態です。いずれにしても米国という国はお金を中心で動く国ですから、お金のない者にとっては住みにくい国と言えましょう。

日本の国を離れて、現地を實際にみることで、新しい発見もでき、また、未知の世界を知ることができます。楽しい海外視察でした。

市長の寛大さに感動

滋賀県山東町議 梅津 正 純

10月7日、午前9時、専用バスで最初の訪問先であるサンフランシスコ市庁舎へと向かった。

前々日までは暑い夏が続いていたようだが、一足飛びに肌寒さを感じるような晩秋の到来。快晴の朝であった。街を歩く人々は半袖半ズボンあり、セーター、皮ジャンパー姿などあって、夏と冬が同居している感じだ。

3年前の1994（平成6）年のサンフランシスコ地震の被害地も復元された、新旧のビルが立ち並ぶオフィス街。目的の市庁舎は破損がひどく、改修工事のため、近くの仮庁舎へと向かった。梅津広道氏（米国仏教団



▲ ジェフ氏（左2人目）は市長の信頼厚い

本部事務局長、福岡県の寺族出身）の案内で、仮オフィスの9階に上がった。オフィス内は日本のように各課がオープンスペースではなく、病院か診療所風の個室になっていて、仕事上のプライバシーが確保されている。市長は会議で不在であったが、市長の補佐役で児童福祉関係の仕事に意欲をもやしておられるジェフ・モリ氏の部屋に案内して頂いた。広い窓から見下ろすとサンフランシスコ平和条約の調印が行われたというドームが、ビルとビルの間から見えた。

モリ氏は日系三世で、熱心な仏教徒であるという。市長の方針ですべての宗教が受け入れられ、大切にされながら福祉行政を行うというモリ氏。それを評価する市長の寛大さが伺える。モリ氏は児童福祉事業の中で児童の健全育成のために現在サッカー、野球場の建設に意欲的に取り組んでおられるとのことだ。児童の健全な育成には宗教的心情の教育が不可欠との信念をもっておられるのだろう。

現在の日本の抱える教育上のさまざまな問題点、公教育のものと宗教皆無のなかで、根底にあるこころの教育、宗教的情操の必要性を感じないわけにはいかない。

多様な人種が混入する国でありながら人種、宗教を問わず、いずれも大切にされ、しかも、少数民族にもかかわらず日系人を受け入れ、重要ポストに起用するという市長のこころの広さに感動と敬意を表さずにはいられない。

サンフランシスコには、現在1万2千人から1万3千人の日系人が在住しているとのこと。大阪市と姉妹提携しており、毎年1千5百人くらいの人が親善交流を行っているそうだ。

日系アメリカ人も2世から3世の時代と移行行くなかで活躍する皆さんに心から敬意を表すとともに、益々発展されることを念じながら市庁舎を後にした。

お念仏の心が脈々と

広島県湯来町議 桜井賢三

私たち龍谷顕真会の一行がロサンゼルス別院を訪問したのは10月9日である。まず驚いたことは、輪番の福岡誠幹氏は私の2年先輩で同郷の出身であった。龍谷大学の樹徳寮で「同じ金のめしを食った仲」である。彼もすっかり白髪になり、随分老人に見えて寂しい思いがしたが、彼も私を見てそう思ったにちがいない。おたがい46年ぶりであった。



▲ 福岡輪番（右2人目）とは46年ぶり

今から92年前の1905（明治38）年頃、当時ロサンゼルスに住む日本人はおおよそ1万5千人と推定される。翌1906年に起こったサンフランシスコ大地震の避難民がロサンゼルス近辺に定住したことを例外としても、1917年頃までは日本人の人口が毎年増加していった。ロサンゼルスで消費される野菜の75パーセントを日本人農業者が生産していた。少数のグループに別れて、それぞれ下町、ウエストサイド、ハリウッド、ボイルハイツ地区に点在していたが、社会的・経済的な中心地はリトル東京であった。

このような状況のなかで仏教会を作ろうという運動が盛り上がりつつあった。1905年10月、内田光融氏を正式に開教使と仰いで仏教団体が組織され、南加仏教会と称された。1917（大正6）年9月30日、南加仏教会、北米仏教会、羅府仏教会の3仏教会が合併され羅府仏教会と命名された。これがロサンゼルス別院である。この合併までには多くの紆余曲折があったことを忘れてはならない。75周年を迎えた別院の会員は1千家族で支部仏教会はハリウッド仏教会、ロングビーチ本願寺仏教会、サンファナンド平原仏教会、バレー仏教会の4つがある。現在5人の開教使によって毎月法話会が開かれている。ほかに別院ではボイスカウト、柔道、日本語学校、ほかにも多くの文化教室を開講している。別院の

運営は毎月開かれる理事会によってなされている。各地より代表300人が理事に選ばれている。理事の献身的愛山護法の姿をみていると別院75周年の歴史は来るべき百周年、二百周年への序曲である。

この理事たちの活躍も、3千5百家族を越える信者の方々の阿弥陀仏の大慈悲を喜ぶところに支えられていることを忘れてはならないと思った。仏教会といえば日本では各宗派連合の仏教会のように思うが、米国では浄土真宗のことをいうのである。

とにかく遠くはなれた米国において、今なお脈々としてお念仏の心が受け継がれていることを思うと、ただ／＼先人の並々ならないご苦労があればこそと頭の下がる思いがした。龍谷顕真会の団長様をはじめ本願寺の前田さん、JT Bの添乗員さんには大変お世話になった。また、参加して同行下さった皆様に暖かく助けていただき、おかげさまでこの意義ある楽しい旅行になったことをこの場を借りて厚くお礼を申し上げたい。

敬老ホームを訪ねて

島根県美都町議 小原 静 也

視察旅行も3日目を迎えた10月8日、予定

より少し遅れた午前9時30分、ロサンゼルス市内の敬老リタイアメント・ハウス（引退者ホーム）を訪ねました。

この施設は、この後訪問する敬老ナーショング・ホーム（養老ホーム）も同様ですが、ケイロウ・サービスが経営しています。

発起人は1964年、オリンピック東京大会の開催のため、私費で世界各国にアピールし、開催にこぎつけたフランク和田氏がオーナーとなり、ジョージ岩谷氏が経営管理者として、日系人の福祉施設として開設され、現在、日系1、2世が入居しています。

合衆国では基本的に、子供が成人すると同居はせず、たとえ独身でも別居するのが当たり前となっています。このような社会的背景と治安の面からも入居希望者が絶えません。また、ロサンゼルスでの中産階級者は年収5万ドル（約550万円）程度ともいわれ、生活関連物価は安く、安定しているようですが、「水と安全にはお金がかかる」とも言われています。

私たちのバスがホームに到着した時、たくさんの人達が玄関前にいらっしゃいました。大歓迎をうけて……と思いましたが、実は市内行ききのバスを待つ入居者の人達でした。

リタイアメント・ハウス（引退者ホーム）は養護老人ホームというより、現役退職者を中心に、スタッフ40人、ボランティアは月延

べ150人のスタッフと、自動車を所有する20人を含め、自分で日常生活ができる60歳以上の124人の人達で構成されています。つまり、ハッピーリタイアメントのアパートの感じですね。

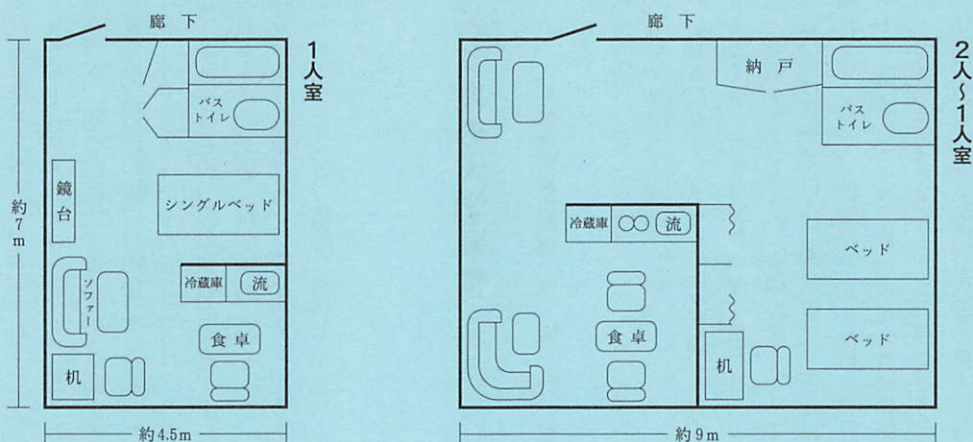
2人住まいの人は自炊もできますが、施設が準備した食事をする場合は、通常のアパートと同じイメージに運営されています。個々に必要な買い物や趣味、研修は施設が準備対応しているとのことでした。

ちなみに、約10坪の部屋を使用する1人の



▲ 施設について詳しい取材を

敬老リタイアメント・ハウス（引退者ホーム）



入居者は月額1、270ドル、約20坪の2人入居者は月額1、560ドルが必要ですが、年金が月額2、000ドル以上あり、生活の余裕を感じました。

ハウスには事務室や居室以外に、ミーティングルーム、面会室、ゲームルームもあり、居室でも小さなパーティができるスペースが確保されていることには、さすが……と感じました。このような施設だからでしょうか、入居希望者は150人を数え、待ち期間は1年半から2年かかるとの報告でした。

「このホームの皆さんはお元氣そうで」と感想を述べた時、ご案内いただいた大石さんが「歩けなくなったら退所してナーシング・ホーム（養老ホーム）に移らなければならぬので、皆さんがんばっています」と。

入居者の宗教は自由、死亡者は家族もしくは市が引き取り、葬儀埋葬にはかわらないとのことでした。また、公益法人に対する監査はあるものの、公共機関からの関与は補助金や事業税を含め全くありません。

敬老ナーシング・ホーム（養老ホーム）には予定より若干遅れ、10時15分に到着しました。玄関前にアクティビティ・コーディネーター（運営指導責任者、支配人ではない）のカズコ・クリエーマンさんが時間遅しと待っていて下さいました。

玄関を入って先ず目についたのは、事務所

の窓口のそばに、「行政監察官（OMBUSMAN）オンブズマンとはなんでしょう。オンブズマンはあなたの人権を守ります。この施設で……（と何項目かについて記され）何かの時には連絡を」と、担当者の顔写真と電話番号の大きなポスターが英語と日本語で掲示されていました。

ナーシング・ホーム（養老ホーム）の入居者は、寝たきりの人と、車椅子を使用しながらでもなんとか活動できる人と、大きく二分されていました。歩ける人は別の中看看護ホームに入居しています。この入居者の年齢は80〜109歳、平均88歳、100歳以上14人が入居しています。

入居費用は月額800ドル程度、国から年金の額に応じて補助金があり、カリフォルニア州からは散髪代程度の補助がなされています。ちなみに合衆国の所得税は35%、消費税7・25%で、子供の扶養義務や負担金はなく、これらに子供の所得は一切関係ありません。

入居者208人、1フロアー72人に対し、正看護者3〜4人の3交替、看護補助者8人の3交替で対応し、ボランティア150人がいます。

ちほう症の人を含め、介護があればなんとか車椅子でも動ける人の棟を視察することができました。4部屋は約16坪で、仕切りや柵

などでのプライベートへの気配りが見られ、個室は約9坪とスペースが確保されています。ブレイルールの1つでは「よさこい節」の歌唱指導が、他の部屋では書道教室が開かれていました。通路の壁には市民ボランティアによる、月々金曜日の予定表が貼られ、ちぎり絵、点字、長谷川一夫の映画会など、1日あたり5〜7の企画が掲示されていました。両方の施設敷地の入り口に、毛筆で「敬老」と書かれていたこと、複雑な気持ち忘れられません。

アメリカの大学事情

福岡県高田町議 荒 木 行 也

私の報告はUCLA（カリフォルニア大学・ロサンゼルス校）についてです。

UCLAはカリフォルニアにある州立大学。創立1919（大正8）年。学生数は3万5千人（学部生2万4千人、大学院生1万1千人）、教授は3千3百人。大学のシンボルは子熊Braving。敷地は160万㎡（50万坪、1.2km四方）。授業料は州在住者は年50万円、州外の在住者は年150万円だそうです。年間予算は750億円。大学の格というのは、入学の難易度よりもOBやOGの活躍

の度合いで評価されるようです（博士取得者数、ノーベル賞受賞者、政府の要人、有名企業の重役など）。またUCLAは博士取得者に占めるマイノリティ（スペイン系やアジア系、白人以外をマイノリティと呼ぶ）の割合が全米一であることも特長である。学生に占めるマイノリティの割合が全米一、特に中国、韓国、日本人の2世、3世が目につく。日本人学生は150人程度らしい。カリフォルニアでは1パーセントのスポーツ推薦学生が合法的に認められている。フットボール、バスケットボールのチームを持つことは、多額の放映料などが収入として計上できるため、日本に比べ、フェアで活気のある大学スポーツシステムとなっている。卒業生はオリンピックに毎回必ず30〜40人が参加し、20個程のメダルを獲得している（ジョイナーなど）。また、全米が祝日となるスーパーボー



▲ 大学のシンボルは子熊

ル（フットボール）で優勝したダラスカウボーイの名クォーターバックであるエイクマンもUCLAのOBである。

日本人学生の入学方法は（半数が家族の関係で米国の高校を卒業）まず、カリフォルニア州立大学に編入システムのある短期大学（カレッジ）に入学する。そこでUCLAに編入できるように優秀な成績を修める。その上でUCLAに願書を出して、3年生編入判定の結果を待つ。合格すれば約2年間で卒業できるそうです。在米経験のない人は、短期大学入学前に1年程度、語学学校で英語の実力をつける必要があるとのこと。また、上智大学やICUなど州立大学と交換留学生制度を持つ大学に入学すれば、1年程度の滞在は可能とのこと。1年間の米滞費用は200万円位、アパート月6〜10万円、食費月6万円位。弱者に優しいアメリカは公共料金が非常に安く、食料品には消費税（普通8・25%）がない等。

以上のことをUCLAの訪問研究員である小幡義彦教授（日本大学工学部機械工学科）の説明を頂きました。

先生のお話によると、日本の若者が多く米国に留学するようになると日本がより国際化するのではないかと思うと。また、日本人の学生は皆英語が達者で、大半が日本での就職を希望している。ぜひバイリンガル教養人と

して日本社会が積極的に受け入れれば、すばらしい活躍が期待されるとおっしゃっていました。

以上、UCLAについて報告いたします。

海外視察のお土産は

広報部主事 前 田 智 教

第5回海外視察がアメリカ西海岸で実施されました。

期間は5日間ですが、飛行機で約13時間の道のりに往復2日を費やすため、現地での滞在は3日間の日程となります。そして、第1回のハワイ開教区から4年ぶりに私が同行させていただくことになりました。

現地の仏教会や別院との連絡を重ねて、準備が整いました。さて募集を始めたものの、参加者がなかなか集まらずに、ようやくのことで13人で決行しました。内訳は会員6人、寺族5人、事務局1人にJTB添乗員1人が同行。私にとっては、この添乗員の同行がないといってもうれしかった。なぜなら、第1回海外視察では参加者が定員に満たなかったために添乗員の同行がなくて、現地での諸手続きはすべて私がしなくてはならなかったことを思い出します。言葉が不自由な外国での

ことを思うと、今回は何も不安はありませんでした。

視察内容はサンフランシスコとロサンゼルス、の仏教会・別院の参拝、サンフランシスコ市庁舎の表敬訪問、ロサンゼルスの日系引退者ホーム、日系敬老ホームの視察、カリフォルニア大学（UCLA）の見学と盛りだくさん。「アメリカでのご苦労されている日系人の方々の現状をじかに感じたい」という会員の希望に添った日程です。それぞれに印象的でしたが、視察先ごとの詳しい報告は本会報のなかで、ご参加の先生方にお願ひしました。

今回の視察で私のなかに残ったことは、現地でご活躍されている日系の人たちや諸施設で生活しておられる人たちが、日本から来た私たちに向けて下さる親しみと懐かしさが交じった、あたたかい笑顔でした。

また、アメリカらしいおらかさを感じた出き事もありました。それは日本に帰るとき、のロサンゼルス空港で手続を待っている時のことです。ちょうどメキシコの公演に向かう40人ぐらゐの合唱団の一行と出合いました。みんな大変明るい年配の紳士方で、大きな笑い声で話をしていました。私たちとも話をするうちに「アメリカの旅の土産に合唱をプレゼントしよう」と申し出て下さいました。1人がサクソスを演奏し、指揮者に併せて3曲の合唱がロビーに響き渡りました。私は心地

よい気持ちでそれを聞きながら、「いい視察旅行だった」と感じました。

私たちは事故もなく、充実した5日間を過ごすことができました。参加者の皆さんもそれぞれに喜んでいただいているようです。なによりも一番よかったことは、全員無事に帰国できたことです。5回目を終了した本会の海外視察、今後も第6回、第7回と実施されることと思いますが、会員の皆さんにはぜひご参加いただきたいと思います。



▲ これがアメリカ土産です

平成10年度 会員活動報告

会員43人のうち、26人から活動報告書の提出がありました。なお、首長は①欄が空白になります。
(平成10年5月28日現在)

- ① 所属委員会
- ② 本年度取り組んでいる事柄
- ③ 今後取り組みたい課題
- ④ 抱負・モットーなど

楯 大亮

北海道・南富良野町長 7期
北海道・上川南・玄正寺住職

- ①
- ②
- ③
- ④ 和をモットーに

桜田 正弘

北海道・北見市議 7期
北海道・北見東・本覚寺衆徒

- ① 福祉民生常任委員会
- ② 行政改革
- ③

④

柴田 薫心

北海道・札幌市議 5期
北海道・札幌・宝流寺住職

- ① 議長
- ② 全天候型スタジアム（ホワイトドーム）建設と周辺整備
- ③ 市（道）の活性化とサッカーJリーグ・コンサドーレ札幌の運営
- ④ 初心忘れず

花木 肇正

富山県・大島町議 5期
高岡・射水・称念寺住職

- ① 文教厚生常任委員会
- ② ◇下水道の早期完了
- ③ ◇教育環境整備と教育のあり方
- ④ ◇町村合併と今後のあり方

嶋田 政憲

福井県・勝山市議 4期
福井・福井・本覚寺衆徒

- ③ ◇農業をとりまく諸問題
- ④ ◇自治振興と福祉向上とは

① 建設企業委員会

② ◇中部縦貫自動車道の建設促進

③ ◇主要地方道の整備

④ ◇老人福祉の充実

⑤ ◇中部縦貫自動車道建設に伴うインター周辺地整備

⑥ ◇青少年問題と家庭教育

⑦ ◇清潔、信頼の行動

⑧ ◇誠意ある対話の実行

中田 宗人

岐阜県・明宝村議 5期
岐阜・郡上・円光寺住職

- ① 総務文教常任委員会
- ② 観光開発特別委員会
- ③ ◇介護保険導入に伴う福祉施策の充実促進
- ④ ◇21世紀を展望した中学校舎の新築事業

⑤ ◇都市との交流人口の促進

⑥ 誠実

松井 靖典

岐阜県・河合村長 2期
岐阜・飛騨・願教寺住職

- ① 伝統産業である手漉き和紙の活性化を図るため、「書」に関する展覧会を計画中。
- ② 「書の館」を中心とした田舎コンベンション的施設建設計画。

③ 少年犯罪の大部分はのちの尊厳の欠如

による。いのちのふれあいができる山村体験施設の整備に着手。「書の体験」も含めて1週間のカリキュラムが組めるようにしたい。

④ 小さいことへのこだわり

◇雪へのこだわり

◇創意工夫へのこだわり

山田 真澄

三重県・東員町議 10期

東海・員弁・浄源寺住職

① 教育民生常任委員会、広報委員会、議会運営委員会

② 大規模公園（15ヘクタール）建設反対、議会リコール運動

③

北川 真道

滋賀県・秦荘町長 3期

滋賀・愛知上・浄甫寺住職

② ① ◇総合福祉センターの建設

◇特別養護老人ホームの建設

◇公共下水道事業

③ ◇全天候型運動場の建設

◇福祉、教育の振興充実

④ 清潔、誠実

黒田 昭信

滋賀県議 2期

滋賀・犬上南・教得寺住職

① 総務企業常任委員会

② 行政、財政改革と県政の安定

③ ◇産業、経済の振興

④ ◇環境熱心県としての研究と行政効果

県土の発展と農山村地域の施策の充実

梅津 正純

滋賀県・山東町議 2期

滋賀・山東・宝安寺住職

① 産業建設委員会、議会運営委員会、広報委員会

② ◇下水道の全町付設

③ ◇複合施設（健康福祉・図書館・文化ホール）

◇水道軟水化

③ ◇介護制度（ヘルパーの活動範囲）

◇宅老活動

④ 寝たきり老人をなくする

山本 隆俊

大阪府茨木市 1期

大阪・茨木東・称名寺住職

② ① ◇地元総持寺地域の町づくり

◇福祉が見える町、芸術・文化があふれる町づくり

③ ◇少子高齢化社会を見すえた、福祉が行き届いた町づくり

◇国際化時代に対応する教育・文化行政の充実

◇若者の創造力や表現力が発揮できる行政施策とスペースの確保

④ 21世紀型の人になやましい、福祉と芸術の町づくり

西殿 香連

和歌山市議 10期

和歌山・和歌山・西正寺住職

① 経済企業委員会

② 紀淡海峡連絡道路の実現

③ 同上

永原 智徳

和歌山県・由良町議 3期

和歌山・日高・教専寺前住職

① 産業建設常任委員会

② 下水事業

③ ◇道路整備

④ ◇日常生活環境の整備

◇地場産業の振興、推進

竺川 紹隆

島根県・金城町議 4期

山陰・福屋・浄光寺住職

① 経済常任委員会

② ◇行政・財政の改善

◇農林業の振興

③ ④

小原 静也

島根県・美都町議 3期
山陰・三隅・妙蓮寺住職

① 総務常任委員会

② ◇公的介護保険

③ ◇環境問題、特にゴミ処理とリサイクル

④ 環境ISO

⑤ 愛してます美都町

桜井 賢三

広島県・湯来町議 3期
安芸・佐伯奥・正向寺住職

① 文教厚生委員会

② 広報広聴調査特別委員会委員長

③ ◇学校教育について

④ ◇議会広報委員長として

⑤ ◇学校教育について

⑥ ◇未来の地球環境について

⑦ ◇核のない世界を実現させたい

⑧ 親鸞聖人の教えをあらゆる場所で浸透させ
るべく頑張っていきたい

⑨

藤谷 光信

山口県議 2期
山口・岩国・教蓮寺住職

① 総務企画委員会

② 教育、基地、環境

③ 同上

④ 意欲、努力、ボランティアの心

熊谷 宗圓

山口県・岩国市議 2期
山口・岩国・西福寺住職

① 経済常任委員会

② 住みよい町づくり

③ できることからやる

④

久保 玄爾

山口県・防府市議 5期
山口・防府・信行寺住職

① 建設委員会

② 環境問題（河川、CO₂、ダイオキシン）

③ 福祉（ゴールドプラン）

④ 己の利益に走らず

秋里 勝道

山口県・美東町議 4期
山口・美祢東・明楽寺住職

① 経済建設委員会

② 町立建造物の活用

③ 町道整備

④

川越 証真

山口県・美祢市議 7期
山口・美祢西・西音寺住職

① 教育福祉委員会

② ◇工業団地への企業誘致

③ ◇産農地区の振興

◇住宅団地への入居促進

③ 人口定住促進

④ 真実一路

荒木 行也

福岡県・高田町議 3期
福岡・三門南・阿弥陀寺住職

① 総務常任委員会

② 炭鉱閉山対策

③ 下水道工事

④ 誠実

國東 利行

大分県・宇佐市議 3期
大分・宇佐・極楽寺住職

① 文教社会常任委員会

② ◇文化財保護

③ ◇民主教育を守る活動

④ 同上

衛藤 龍天

大分県・久住町長 4期
大分・岡・安照寺住職

①

② ◇大分県町村会長としての職務

③ ◇国民文化祭（伝統芸能の部）の開催

④ ◇町営国民宿舎「久住高原荘」のオープ

⑤ ◇グリーンツーリズムの準備

⑥ ◇町中心街の整備と集落排水、国道バ

⑦

⑧

イパス

- ④ ◇町役場庁舎の建築
虚心坦懐、一意専心

前原 彈邵 熊本県・深田村長 5期
熊本・球磨・善正寺住職

- ① 県町村会評議員、郡町村長会長

- ② ◇大学設置

◇5カ町村合併

- ③ 健康保養基地づくり

- ④

平成十年度

総会報告

- 1、日時 5月15日(金)

午前9時10分から正午まで

- 2、場所 宗務総合庁舎3階
和室、大会議室

- 3、開会式 ○勤行・讃仏偈 ○総長挨拶
○代表世話人挨拶《大会議室》

- 4、総会 ①日谷周暎総務挨拶

②議長選出 荒木行也世話人

③平成9年度事業、決算報告

④第5回海外視察(アメリカカ
西

海岸) 報告

⑤平成10年度事業、予算案

⑥第6回海外視察計画について

11月16日(金)

5日間の日程でオーストラ
リアの視察計画を決定《和室》

- 5、蓮如上人500回遠忌法要参拝

《御影堂》

平成十年度

世話人会報告(第1回)

- 1、日時 5月14日(木)

午後3時から4時まで

- 2、場所 宗務総合庁舎3階 会議室4

- 3、内容 ①平成9年度事業、決算報告

②平成10年度事業計画、予算案

③第5回海外視察(アメリカカ
西

海岸) 報告

④第6回海外視察計画について

⑤総会の運営について

会員の動静

(新入会員)

山本 隆俊(大阪府 茨木市議)

大阪・茨木東・称名寺住職

窪田 享信(島根県 温泉津町議)

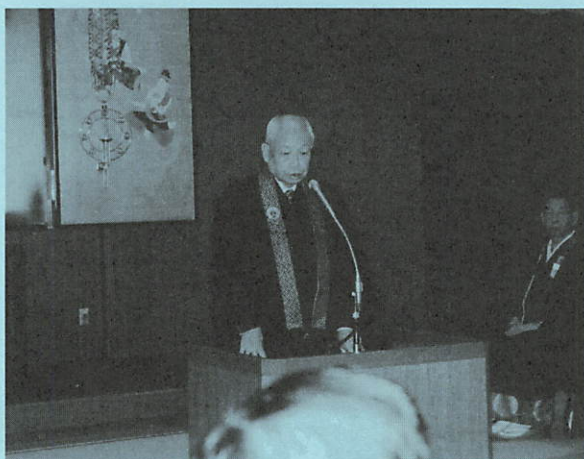
山陰・大家・願林寺住職



▲ 開会式の総長挨拶



▲ 蓮師の法要に参拝



▲ 代表世話人の挨拶



▲ 総会での協議風景

第6回 海外視察ご案内

開教から6年、

オーストラリアの旅

今年実施の第6回海外視察はオーストラリアを訪問いたします。期間は11月16日(月)から20日(金)までの5日間。

オーストラリアは開教が始まってから6年目の新しい開教地で、シドニーに開教事務所があります。また、カウラには第2次世界大戦の日本人戦没者墓地があります。1988年のオーストラリア建国200周年を記念し、平和への願いを込めて、多くの人達の寄贈による桜並木の植樹が今なお続けられています。

今回の視察ではシドニーの開教事務所をはじめ、カウラの市庁舎訪問、日本人戦没者墓地、日本庭園、キャンベラ(首都特別地域)の戦争記念館や国会議事堂などを視察する予定です。

ご家族、ご門徒、ご友人をお誘い合わせの上、ぜひご参加下さいませようご案内いたします。

龍谷顕真会事務局